

名張ゆめづくり協働塾～防災ワークショップ～

風水害・地震から身を守る (2) 発災から3日後 ～地域では何が起きているのか～



2019年1月19日

(特活)NPO政策研究所専務理事

相川康子

今日のワークショップの狙い

■地域防災で行っておくべきことを、時間軸の中で点検する

いまの訓練や研修は「発災当日の対応」が中心ですが、もう少し先の(たとえば3日後)の状態を考えてみましょう

★どんな状況だと思えますか？

公的な救助や支援は？／避難所(在宅避難なども含めて)は？

ライフラインの復旧は？／商店や病院、学校など施設の再開は？

○あなたは、どんなことで困りますか？

○あなたの周囲の「あの人」は、どんなことで困るでしょうか？

⇒さかのぼって、発災前の手立てを考えてみましょう

3日たったら、もう、通常生活に戻れるんじゃないかな。ライフラインも復旧するだろうし...

そろそろ自宅に戻って片づけをしなくちゃね

とにかく避難所にい続ければ、食べ物も寝具も、あるんじゃないの

通常生活は無理でも、全国から救援物資や人が来て、色々と、助けてもらえるはず

避難所にいるけど、そろそろ息子が迎えにくるはず。自宅の修理が必要なら、しばらく息子たちの家で厄介になろう

我が家に3日分の水や食料を備蓄がある。その後は、救援物資が来るだろうし、お店も開くだろうし...

とにかく、当日や翌日の混乱を乗り切れば...
あとは、なんとかなるんじゃないかな？

(一般住民には)あまり知られていない事実

- 「(指定)緊急避難場所(一時避難所)」と、「指定避難所(避難生活を送る場所)」とは機能が異なる(場所も異なる場合がある)
- 過去の災害では、避難所の数や、そこで避難生活を送る被災者の数は3日目あたりがピークになる ←余震の影響、家庭内備蓄の限界
- 避難所の運営は、住民が主体となる(行政職員は来られたとしても1~2人)
- 南海トラフが動くような大災害では、公的避難所の数は全く足りない

- リスト化された「災害時避難行動要支援者」よりも「災害時要配慮者(要援護者)」になる人はずっと多い。また被災が原因で、支援が必要な状態になる人もいる
- 当日、助かっても、その後の過労や劣悪な環境の中で命を落とす **「災害関連死」が続出**している
 - ★阪神・淡路大震災で919人 (兵庫県の10年検証 14.4%)
 - ★東日本大震災では3,676人、うち1ヶ月以内は1,212人(復興庁調べ、2018年3月末時点)
 - ★熊本地震では、直接死50人に対して、関連死が4倍以上

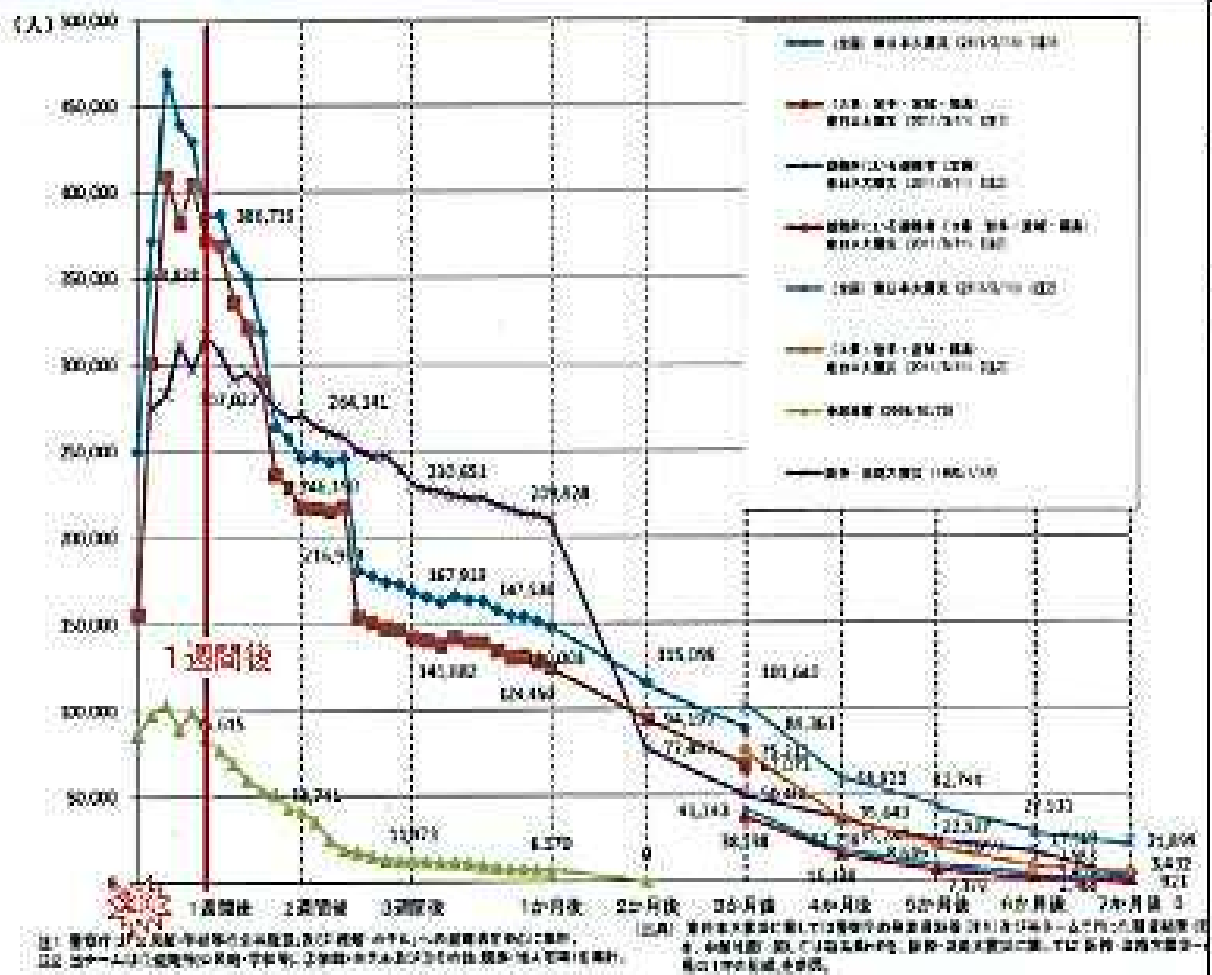
※緊急避難場所に連れだって逃げるだけが「災害対応」ではない

3日目の被災地はどんな状態か

- 生存者の救出が最優先される72時間が終了
- 情報収集により被害の全貌が見えてくる
- 応急期から復旧期へ、体系だった被災者支援が始まる
プッシュ型の物資提供、専門人材派遣、ボランティア活動
- 備蓄していた水や食料、ガソリンなどがなくなりつつある
- ごみや汚物がたまって不衛生な状態になる
- ライフラインは復旧しつつあるが、地域差がある
- 公共交通はまだ不通。幹線道路は災害対応の車両優先なので、各地で大渋滞がおきている
- 多くの公的施設や店舗は、(通常には)機能していない
- 事業者はBCPに基づき復旧を進める(社員に出勤を求める)
- 避難者の疲れやストレスが限界を迎えつつある
- 被災自治体(行政)は、どんな状態でしょう？

名張市危機管理室の立場から①

【避難所生活者の推移】東日本大震災、阪神・淡路大震災及び中越地震の比較について



避難者の推移

・避難者は発災後、3日目位から1週間が最も多い傾向を示している。

名張市
南海トラフ地震(理論上最大クラス)の避難者数(名張市)

1日後 約2300人
避難所 約1400人
避難所外約 900人

1週間後 約9700人
避難所 約4900人
避難所外約4900人

1か月後 約2300人
避難所 約 700人
避難所外約1600人

※冬夕発災

名張市危機管理室の立場から②

自治体の地震対応の基本的な流れ



食糧の状況(名張市保管数及び国プッシュ型支援数)

| | 保有食 | 4日後 | 5日後 | 6日後 | 7日後 | 計 |
|-----------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|
| 名張市保有 | 9,700 | | | | | 9,700 |
| 国プッシュ型支援数 | | 8,443 | 9,986 | 11,529 | 13,071 | 43,029 |
| 合計 | | | | | | 52,729 |

三重県広域受援計画及び名張市備蓄数

名張市危機管理室の立場から③

参考:新潟県中越地震の様相

発災から3日間地域では何が起きているか。(中越地震)

発災1日目(土)17:56

- ・17:56 **新潟県災害対策本部設置**
- ・18:20小国町、18:40小千谷市、19:00川口町本部を**市役所外テントに設置**
- ・18:34消防庁への被害の情報報告
- ・19:20**緊急消防援助隊出動要請**
- ・19:20避難勧告、避難所開設
- ・19:30道路状況パトロール
- ・19:45水道、下水道施設被害調査
- ・20:15**警察広域緊急援助隊派遣指示**
- ・21:05**自衛隊に災害派遣要請**
- ・23:00政府現地連絡対策室県庁に設置
- ・**災害救助法適用決定**
- ・在宅支援センター相談員、在宅1人暮らし高齢者安否確認
- ・物資協定締結企業に食料・水を要請
2日目朝3万食、
2日目夕5万食水10万人分
- ・簡易型水洗トイレ調達
- ・衛星電話設置

発災2日目

- ・海上保安庁災害救助活動の**派遣要請**
- ・川口町、被害情報の把握開始
- ・山古志村本部を**中学校に設置**
- ・政府調査団派遣
- ・**県災害ボランティアセンター設置**
- ・応急危険度判定(～約1か月間)
- ・**市町ボランティアセンターを設置**
- ・山古志村全村避難決定

発災3日目

- ・長岡市避難所125か所設置
- ・長岡市被害状況調査開始
- ・長岡市身体障害者の安否確認開始
- ・長岡市ごみの特別収集開始
全国よりバキュームカー75台派遣
- ・山古志村避難指示発令
- ・**災害支援医療チームの診療**

中越地震 平成16年10月23日(土曜日)発生
M6.8 最大震度7 死亡68人、重症632人、軽傷4,172人
全壊3,174件、半壊13,810件、一部損壊104,619件、
火災9件 土砂崩れ等6,000か所 長岡市で人口約29万人
山間部で人口が密集する都市が少ない。豪雪地帯のため、頑丈な建物であった等被害が抑えられた
インフラの破壊と避難所に避難者が集中

(避難行動要支援者リスト掲載者以外にも) 避難生活が難しい人たちは多い

■設備が整っておらず、騒がしい避難所では生活できない人がいる

在宅避難:壊れた自宅、知人宅、車庫や倉庫

車中泊、テント暮らし

指定されていない避難所:各種学校、小規模作業所、宗教施設

○私や家族は、大丈夫だろうか？

- ・ ライフラインが止まった中で生活できる？
- ・ 救援物資なしで、どれくらい生活できる？
- ・ ケガで動けなかったら、誰か様子を見に来てくれる？

○地域の中で気になる「あの人」は、大丈夫だろうか？

■役割が重なり、過重な負担や板ばさみで苦しむ人がいる

○地域の役員:我が家も気になるが、役割も果たさなくては・・・

○公務員、医療・福祉関係者、ライフライン事業者、BCP要員
:我が家も気になるが、仕事にでかけなくては・・・

**発災直後から走り回っていた人は、そろそろ体力・気力の限界
交替要員はいますか？**

ワークショップ序盤(20分)の進め方

3日目に、私はどんなことで困るかを考える

想定:1月22日(火)午後3時頃、名張市で震度7の大地震が発生しました。今は25日(金)の朝です。午後から冷たい雨が降るようです。市内は電気が市域の半分程度復旧しましたが、ガスや水道、公共交通は止まったままです。

(1)まずは個人ワーク【5分】

ワークシートの上段を使い、自分の普段の生活を記したうえで、3日目以降の困り事を考え、＜避難生活＞と＜仕事・活動など＞に分けて箇条書きで書き出してみる

(2)自己紹介を兼ねて、グループで共有する【7分】

1人1分目処×6人＋進行役選出

(3)意見交換【8分】

具体的に想像できたか？

新たに気づいた困り事はなにか？

小計20分間

ワークショップ中盤(30分)の進め方

ほかの人の困り事を想像してみる

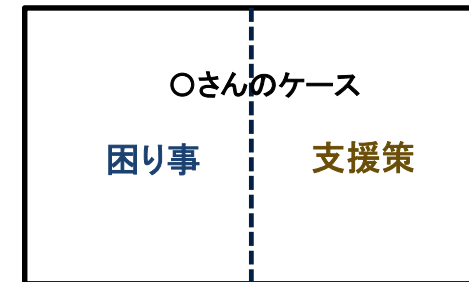
(4)「役割(ア～ク)」の札を1グループ2枚ずつ引き、どちらの役をやりたいかで、グループを2班に分ける【2分】

(5)班の作業:カードの立場の人が、3日目以降に抱える困り事について、班の中で検討し、A3用紙の左半分

に箇条書きで書き出す【8分】

議論する際、必要に応じて付箋を使ってください

ワークシートの「中盤」の段に各自が書いてからでも、いきなり議論を始めても構いません。



(6)グループ作業:書き出した「困り事」の内容をグループ内で発表し、地域で支援できることがあるかどうか、皆で考える。【10分交替×2班】

A3用紙の残り半分を使って箇条書き

(できれば左側の「困り事」と対応させる)

小計30分間

中間まとめ＋地域防災の視点

- ア～クの人は、3日目以降、どんな困り事を抱えそうですか？
- そのとき(3日目以降に)、地域でサポートできそうなことはありますか？

※できないことも当然ある

自助・共助・公助のバランスが重要

- 困り事が起きないように(又は小さくてすむよう)あらかじめ、どんなことに取り組んでおけばいいのでしょうか？
 - 共助をみんなで充実させる
 - 公助や共助の限界を伝え、それぞれが自助を充実させるよう働きかける

地域にできる「命を守る」行動とは

発災前

面識社会をつくる

- 取り残されそうな人(脆弱性の高い人)の把握
- 日常的なケア(声掛け、交流行事など)

発災
当日

安全な場所へ逃げる

- 自分(+家族)の身の安全を確保
- 避難行動要支援者への対応、安否確認
- 地区の救助活動

発災後

災害関連死を出さない

- 地域のローラ一点検
- 避難先での要援護者(要配慮者)のケア
- 復旧に向けた取組

連続して(分断なく)取り組めるのは地域コミュニティだけ

発災後の地域防災

災害対策本部の(再)編成

初動の避難誘導や安否確認が終わった後、必要に応じて担当(班分け)を組み直す

情報収集+広報、渉外、福祉、などの担当者を増強

場所、必要な備品・装備、情報共有の仕組み、内外との連携

※避難所運営チームだけでなく、在宅被災者のために地域支援を行うチームも結成する

- 地域のローラー点検 (取り残されている人はいないか?)
- 物資の発注・調達、受入れ、管理
- 要支援者対応(福祉スペースの設置運営など)
- ボランティア対応
- … ほかに?

※「地区防災計画」を検討する中で、3日目以降の対応も盛り込んでおく

自分の、あの人の困り事の予防・軽減策 発災前に何をしておけばいい？

○我が家の防災体制の点検

備蓄や装備は十分か？ 連絡体制は十分か？

○要配慮者(候補)の人への声かけ、備えのお手伝い 家具の固定化、緊急連絡先の把握

個別ニーズに応じた備蓄や備えのお手伝い

○要配慮者のニーズ把握(想定)と接遇研修 福祉のまちづくり

○住民に対する「サバイバル術」の伝授

ライフラインが長期間、止まっても生活できるように

○・・・ほかには？

どんな人材が必要？ どうやって集める？

ワークショップ終盤(25分)の進め方

地域防災で発災前にやることの提案

(7)個人ワーク【3分】

ワークシートの「終盤」(下部)の2マス<自分では>とく地域防災では>にそれぞれ2項目以上、アイデアを書く

(8)グループ作業【10分】

地域の防災対策として、できること、やっておいたほうが良いことのアディアを出し合う

(9)発表と共有【12分】

ユニークなアイデア(漠然とした課題よりも、小さなことでも具体的な実践の提案の方がよい)を1つ選び、1グループ1分間目処で発表

お疲れ様でした！
アンケート記入＋閉会挨拶

小計25分間